



一人ひとりが歴史を正しく次世代へつないでいこう！



戦後81年 終戦記念日

8月15日、81年目の終戦を迎えました。国内では、「殺傷能力のある武器の輸出を全面解禁」し、「安全保障関連三文書改定の議論」が進んでいます。また、非核三原則について、広島・長崎の平和祈念式典における高市首相の「非核三原則を堅持する現状のみにとどめたあいさつ」など、戦争前夜と言えるような事態が後を絶ちません。世界に目を向けると「ロシアによるウクライナ侵攻」や「イスラエルのガザ侵攻」など、未だに戦争は終わっていません。

私たちは様々な形で戦跡を巡り、戦争体験者の声を生で聞き、同じ過ちを繰り返さないために、歴史の真実を学びました。戦争体験者が年々減少していくなか、歴史を正しく次世代へ「つなぐ」ことが、私たちの使命です。

8月6日に行われた広島平和記念式典でのこども代表あいさつを一部紹介します。

- ◆ 私たちには、被爆体験を直接聴くことができる最後の世代として、当時の記憶を事実として受け止める使命があります。目をそらさず、知ろうとすること。悲しい現実でも向き合うこと。
- ◆ 広島の子どもとして、行動する責任があります。相手の気持ちを想像し、意見の違いがあっても認め、受け止めること。平和への思いを、自分なりの方法で表現すること。
- ◆ 一人ひとりの小さな行動が、平和への後押しとなります。平和とは、誰かからあたえられるものでなく、世界中の人々で創り上げるものです。

**2度と同じような悲劇を繰り返さないために、
1人ひとりが考え、行動していこう！**